

## 北東北がん医療コンソーシアム共同宣言

我が国において死因の第1位である「がん」は、国民の生命及び生活にとって重大な問題であり、国・自治体・医療従事者の一層の努力が求められている。

北東北の「がん医療」は、慢性的な医療人不足に加え、中央との医療情報格差や広域圏に基幹病院が散在する地理的制約も重なり、「がん対策基本法」で定められた「がん治療の均てん（霑）化（国民の誰もがいかなる場所においても標準的ながん治療を享受できる）」の実現が困難な状況にある。

この北東北で、高品質で開かれたがん医療を推進し、住民の社会福祉を実現するためには、がん医療に携わる多くの関係機関が連携して、がん治療成績の向上はもとより、がん専門医療人の育成、がん予防、がん患者の療養生活の質の維持・向上といった多くの課題に対して、具体的解決施策を協議し、実行することが不可欠といえる。

北東北がん医療コンソーシアム設立総会の出席者は、このような認識を共有し、本日、北東北医育系4大学（岩手医科大学、秋田大学、弘前大学、岩手県立大学）、関係行政機関、関係医療機関、各医療職能団体によって構成される「北東北がん医療コンソーシアム」を設立する。「北東北がん医療コンソーシアム」は、今後の活動目標を以下のように設定し、北東北の「がん治療の均てん（霑）化」に向けて邁進する。

1. がん専門医療人の育成と研修事業の連携
2. がん医療従事者の教育システムの開発・共有化
3. がん医療情報の共有化
4. 地域がん医療連携とその精度管理
5. 院内がん登録と地域がん登録の精度管理と標準化
6. がん予防に係る啓発活動
7. 地域住民への適正ながん医療情報の提供
8. がん医療に関する研修会・講演会等の実施
9. 北東北地域を越えたがん関連機関・団体等との交流・連携

上、宣言する。

平成20年7月28日

北東北がん医療コンソーシアム設立発起人

岩手医科大学大学院医学研究科長 鈴木 一幸

秋田大学大学院医学系研究科長 本橋 豊

弘前大学大学院医学研究科長 佐藤 敬

岩手県立大学大学院看護学研究科長 安藤 広子